

相良村の概要

位置と地勢

本村は、熊本県の南部に位置し、人吉球磨盆地のほぼ中央にあり、村の中央を日本三急流の一つである球磨川の支流「川辺川」が北から南にかけて貫流しています。北部は、標高400m～1,300mの山岳が連なる山林地帯であり、南部は、平野が拓けた農耕地帯を形成しています。村の総面積は94.54km²で地目別にみると、農地8.37km²(8.85%)、宅地1.81km²(1.92%)、山林・原野69.94km²(73.98%)、その他14.42km²(15.25%)となっており山林の占める割合が高くなっています。

気象状況は、平均気温は15.2℃と全般的には温暖でおだやかな気候ですが、近年夏季には35℃以上の猛暑日が続き、冬季には最低気温が氷点下になる日もみられます。また、年間で平均約2,600mm前後の降水量がありますが、近年集中豪雨の回数が増加しており、年間の降雨量が増加傾向にあります。



■相良村の地目別土地利用面積

単位：ha・%

	総面積	農用地		森林	水面河川 水路	道路	宅地		その他
		田	畑				住宅地	工業用地等	
面積	9,454	455	382	6,994	87	233	114	67	1,122
構成比	100.0	4.81	4.04	73.98	0.92	2.46	1.21	0.71	11.87

資料：熊本県統計年鑑（平成24年）



沿革

鎌倉時代の建久年間に、柳瀬地区は、人吉を中心とした人吉庄に含まれ、深水、川辺、四浦地区は、永吉庄に含まれていたといわれています。鎌倉時代から明治時代に至るまでの700有余年は、相良氏の統治下にありました。その後、明治22年4月「市町村制」の施行とともに、当時、川辺村、深水村、柳瀬村の3村が合併し、川村となり、四浦村と五木村は組合村を結成し、役場を四浦村に置きましたが、明治29年再び分離独立し、四浦村となりました。

昭和28年9月公布の町村合併促進法に基づいて、昭和31年9月1日川村と四浦村が合併し、新村名「相良村」として現在に至っています。

村民憲章

- 一、自然の恵みに感謝し、豊かな美しい村をつくります。
- 一、仕事によるこびと誇りをもち、産業の振興に努めます。
- 一、先人に学び、伝統を継承し、文化を高めます。
- 一、かけがえのないいのちを大切にし、健康づくりに努めます。
- 一、助け合い励ましあって、住みよい村をつくります。

村章



さがらの「さ」を図案化したもので、将来に向かって強く、大きく飛躍する「発展」と互いに交わる村民の融和を表し、下部の切り抜きは貫流する「川辺川」を表しています。

村花・村木・村鳥



村花 「福寿草」



村木 「茶」



村鳥 「セキレイ」

村公式キャラクター



「サガラッパ」

営業主任（平成 25 年 4 月 1 日辞令交付）

相良村出身のデザイナー西小路修一氏がデザインしたキャラクター。村に伝説が残るカッパがモデル。背中の甲羅は特産のお茶の葉。西小路氏が考案した9つのキャラクターの中から村職員が3つの案に絞り込み、住民投票で決定しました。愛称は、村内の小中学生から案を募集し、応募された中から選ばれました。